

稲作生産情報第4号

令和2年6月23日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- 生育は概ね平年並ですが、地域によるばらつきが見られます。天候や生育に応じた水管理に努めよう！
- カメムシ被害を防ぐため、地域ぐるみの草刈りをしっかり行おう！

1 県生育観測ほの生育状況

6月19日現在の生育は、津軽及び下北地域で平年並みから平年を下回り、県南では平年を上回った。

表1 6月19日現在の生育状況

品 種 名	地 域 (地点数)	草 丈(cm)			株当たり茎数(本)			葉 数(枚)		
		本年	平年	平比	本年	平年	平比	本年	平年	平差
つがるロマン	津軽(5)	34.2	35.6	96	10.6	11.9	89	7.7	7.7	±0
	県南(1)	38.9	36.9	105	22.4	14.0	160	7.8	7.8	±0
	全県(6)	35.0	35.8	98	12.5	12.2	102	7.7	7.7	±0
まっしぐら	津軽(6)	41.1	41.6	99	11.6	11.7	99	7.3	7.3	±0
	県南(5)	44.4	40.4	110	14.7	11.0	134	7.9	7.2	+0.7
	全県(11)	42.4	41.0	103	13.0	11.4	114	7.6	7.2	+0.4
ほっかりん	下北(1)	37.5	36.5	103	7.6	9.6	79	7.1	6.4	+0.7

注 平年値は調査地点により異なり、「つがるロマン」が過去5～24か年、「まっしぐら」が過去8～15か年、「ほっかりん」が過去9か年の平均値

2 農林総合研究所作況田の生育状況

6月20日現在の生育は、茎数がかなり少なめであった。

表2 6月20日現在の生育状況

場 所	品 種 名	草 丈 (cm)				株当たり茎数 (本/株)			
		本年	平年	平比	前年	本年	平年	平比	前年
黒石	つがるロマン	39.7	36.4	109	38.4	15.8	17.3	91	15.7
	まっしぐら	45.0	42.1	107	40.6	15.5	18.8	82	16.6
十和田	まっしぐら	43.1	-	-	43.4	8.5	-	-	19.3

場 所	品 種 名	1 m ² 当たり茎数 (本/m ²)				葉 数(枚)			
		本年	平年	平比	前年	本年	平年	平差	前年
黒石	つがるロマン	335	368	91	333	7.9	7.6	+0.3	7.8
	まっしぐら	329	398	83	352	7.1	7.4	-0.3	7.5
十和田	まっしぐら	173	-	-	376	-	-	-	-

- 注1 黒石は(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所作物部、十和田は相坂の現地ほ場のデータ
 2 移植日は、黒石が5月20日、十和田が5月15日、m²当たり栽植株数は、黒石が21.2株、十和田が20.4株
 3 平年値は、黒石「つがるロマン」は前13か年、「まっしぐら」がH19年～H20年およびH23年以降(11か年)の平均値
 4 黒石の本年値は6月19日の調査値を6月20日に換算。十和田の本年値は6月19日の調査値

(参考) 黒石：6月10日～19日の気象、十和田市：6月10日～18日の気象

項目	黒石アメダス			十和田アメダス		
	本年	平年	平差・比	本年	平年	平差・比
平均気温(°C)	20.7	17.3	+3.4	20.1	16.2	+3.9
最高気温(°C)	25.6	22.2	+3.4	26.1	21.1	+5.0
最低気温(°C)	16.3	13.2	+3.1	14.7	11.9	+2.8
日照時間(時間・%)	73.6	54.1	136	64.5	47.3	136

これからの農作業と管理

1 水管理

- (1) 温暖な日は3cm程度の浅水にして水温と地温の上昇を図り、気温の低い日は5～6cmのやや深水で保温し、茎数の早期確保に努める。
- (2) 「日中止水、夜間かんがい(夕方又は早朝に入水)」の基本を守り、できるだけ水温の上昇を図る。
- (3) 土壌還元による「わき(ガス)」が発生している場合は、一時落水や水の入れ換えを行う。
- (4) 中干しは、1株当たり20本程度の茎数を確保した水田では、天候の良い日を選んで行い、生育遅れの水田や低温が続く場合には行わない。
- (5) 中干しを行う場合は、田面に軽くひび割れが入る程度とし、低温に弱くなる幼穂形成期前には必ず終了する。なお、中干し中に低温が続くことが予想される場合は、直ちに中干しを中止して入水する。
- (6) 水はけの悪い水田で中干しを行う場合は、効果を高めるため、5m程度の間隔で溝切りを行う。

2 病虫害防除

(1) 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類(アカヒゲホソミドリカスミカメなど)の発生密度を抑制するため、7月中旬までに畦畔や水田周辺の雑草地などの草刈りを地域ぐるみでしっかり行う。

(2) いもち病

ア 補植用の苗を畦畔や水田内に放置していると葉いもちの発生源となるので、速やかに処分する。

イ 葉いもちの初発生は、例年7月上旬頃からみられることが多いので、発生状況に十分注意し、病斑が見つかり次第、防除を徹底する。

ウ 葉いもちが例年発生する水田や抵抗性の弱い品種では、予防剤による防除を基本とする。

エ 予防剤による防除を行った水田でも、葉いもちの発生がみられた場合は、4～5日ごとに成分の異なる茎葉散布剤による追加防除を行い、穂いもちの伝染源となる上位葉での発病を抑えるよう努める。

(3) イネドロオイムシ

食害が多くなると稲の生育が遅れるので、発生が多い水田では、茎葉散布剤や水面施用剤で早めに防除する。

3 雑草防除

(1) ホタルイ、コナギ及びアゼナなどの一年生雑草やオモダカ、クログワイ及びシズイなどの多年生雑草が多く残っている水田では、バサグラン粒剤・液剤及びその混合剤を散布する。

(2) ノビエが多く残っている水田では、ノビエが4葉期までであれば、クリンチャー1キロ粒剤、ヒエクリーン1キロ粒剤、ワンステージ1キロ粒剤、5葉期まではクリンチャーEW、ノビエに加え広葉、多年生雑草も残った水田では、ノビエ4葉期まではヒエクリーンバサグラン粒剤、ノビエ5葉期まではクリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSCが効果的である。

また、剤によって散布条件、方法、が異なるので、使用方法を事前に確認しておく。

(3) 多年生雑草やノビエ等の発生量が少ない水田では、拾い草をする。

4 復元田の管理

ブロックローテーションなどで水稻栽培に復元した水田では、土壌窒素の発現量が多くなるため、過繁茂による倒伏や病害虫の発生のほか、有機物が多い場合は根腐れを起こすことがあるので、1株当たり20本程度の茎数を確保したら、積極的に中干しを行う。

～農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～

農業保険には、農作物共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎農作物共済

「農作物共済」は水稲・麦を対象として、災害による収穫量の減少に対する損害を補償します。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象となる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。（青色申告の実施が要件）

※詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

～～～ みんなで防ごう！カメムシ被害 ～～～

斑点米などで品質を落とさないよう、7月中旬までに、地域ぐるみで畦畔や水田周辺の遊休農地などの草刈りを行い、カメムシ被害を防ごう！

令和2年度青森県農薬危害防止運動展開中！（5月1日～8月31日）

- 1 農薬を使用する前には必ずラベルを確認し、使用基準を守って使用しましょう。
- 2 水田で使用した農薬が河川に流出しないよう、農薬使用後は7日間は止め水し、落水やかけ流しはやめましょう。
- 3 農薬の散布は風の弱い日や時間帯を選び、散布の方向や位置に気をつけるなど、周辺の農作物、学校、畜舎、ミツバチなどに飛散しないようにしましょう。



連絡先 農産園芸課稲作・畑作振興グループ
県庁内線 5075・5074
直通 017-734-9480

◎ 次回の稲作生産情報の発行予定は7月3日（金）です。